

第1学年立山自然観察実習

◆期 日:1回目 令和7年7月21日(月)~22日(火)

2回目 令和7年7月25日(金)~26日(土)

◆場 所:富山県立山博物館、美女平、弥陀ヶ原、室堂平(富山県中新川郡立山町)

◆参加者:第1学年探究科学科生徒81名、

◆指導者:富山県ナチュラリスト協会の先生方、富山県天文学会の先生方、本校教職員

私たちは、立山実習を通して、立山の沢山の自然に触れることで、個々の植物だけでなく植生についても多くの新たな発見を得ることができた。

7月9日(水)に行われた事前指導では実習に関する説明を受け、11日(金)には高志の国文学館にて、庭園に植えてある木々や植物などの植生調査を行い、植物の分布や種類などを細かく調べるなどして、じっくりと植物を「観察」できた。計2回の事前指導・事前学習を経て、立山実習へ行った。なお、今年から立山黒部アルペンルートの乗り物を乗り継いで実習に向かうことになった。



◇1回目 7月21日(月)~22日(火)

1日目には、まず初めに立山博物館を訪れ、立山の自然や歴史、文化に関する資料や展示品などを通して立山の歴史や立山信仰について詳しく学び、立山についての知識や理解を深めた。その後立山ケーブルカーに乗って美女平へ行き、タテヤマスギの植生観察を行った。植生観察では、ナチュラリストの先生方の詳しい説明を聞き、実際に葉を触り、平地と立山のスギの葉を比較して詳しく調べた。また、立山高原バスが山上のほうへ移動するとともに、高度差によるバイオームの変化や、森林限界線、高木限界線などを車窓から観察できた。弥陀ヶ原に着いてからは、ナチュラリストの先生方と地塘の周辺を巡り、弥陀ヶ原の地塘周辺に生息している植物をじっくりと観察した。また、ナチュラリストの先生方の植物の解説により、多くの知識を蓄えることができた。また、山を登ったところで立山カルデラが一望でき、とても迫力を感じる絶景だった。その日の夕方には、綺麗な夕日が眼下に広がる雲海に浮かぶ特別な景色を見ることができた。また、夜には天体観測を行い、天文学会の先生の説明を受けながら望遠鏡で星を観察した。夜空はとても晴れていて、たくさんの星が肉眼で見える満天の星空の中、天の川や星座、流れ星などを見ることができた。



2日目は、朝にナチュラリストの先生方によるライチョウについての講義があり、ライチョウの基本的な知識から、人工繁殖の成功までの過程などの発展的な内容のものまで詳しいお話を聞くことができた。その後室堂平まで行き、高山植物の調査をした。沢山の高山植物を観察し、それぞれの特徴を理解できた。しばらく道を進んでいくと、大きなみくりが池が広がっていて、改めて自然の壮大さを感じた。さらに進んでいくと地獄谷の景色が広がっていった。谷にはきれいな水色をした温泉があり、噴煙が漂っていた。元の道に戻っていく途中でライチョウを見ることができた。



この実習を通して、立山の自然に直接触れ、その壮大さを実感するとともに、平地との植生の違いや植物が自然の中で生き抜く知恵を感じることができた。また、7月23日(水)に行われた事後学習では立山での調査結果をもとに立山の植物についての自分たちの考えを深めることができた。

晴天に恵まれた今回の立山実習は、私たちにとって、かけがえのない学び場となった。雄大な立山の自然を舞台に、立山の魅力を余すところなく伝えて出されたナチュラリストの先生方、星空の奥深さを丁寧に解説して下さった天文学会の先生方、宿泊面において温かいサポートをして下さった天望立山荘の皆様、限られた時間の中で実習に専念できるよう細部にわたり準備を整えて下さった本校教員の先生方、そして日々の準備や体調面で支えてくれた家族など、沢山の方々のご尽力があってこそ、この実習は多くの生徒にとって実り多いものとなった。こうした多くの支えに改めて感謝し、この実習で得た新たな学びを今後の探究活動にしっかりと取り組んでいきたい。



◇2日目 7月25日(金)～26日(土)

私たちは事前学習として立山の植生や歴史、文化について学んだ後、7月25日から26日に、探究科学科1年生を対象とした立山実習に向かった。

立山博物館では長い歴史の中で培われ、人間の生活や信仰の舞台となった立山の自然や、人間と自然とがどのように関わってきたのかを学んだ。その中で、江戸時代まで立山が女人禁制の山であったことに驚いた。

弥陀ヶ原ではナチュラリストの方に説明を受けながら、弥陀ヶ原の植生を実際に目で見て観察した。事前に学習した植物でも直接判別することは難しく、ナチュラリストに質問し、自分が知らなかった情報も教えてもらうことで収穫のある経験になった。他にも標高が高いところにしか生えない植物の特徴や弥陀ヶ原独自の環境を知ることで、より植物への理解、関心が高まった。

1日目の夜の天体観測は、初めのうちは天候が怪しく、天文学会の先生のお話を聞き、自分たちも知っている身近な星について様々なことを学んだが、次第に天候が回復したため外で星空観察ができることになった。空気の澄んだ立山で見る星空はまさに圧巻で、明かりを消すと空一面に星が光っていた。また、説明を受けた北斗七星やほかの星座などを自分たちではっきり認識できるほど観察できたことで天体への興味が非常に高まった。

翌日、室堂では咲いている植物を観察し、初日に学んだことを思い出すと同時に結び付けながら知識を深めていけ、初日ではわからなかった高山植物も2日目になると種類がわかるようになった。道中、みくりが池で立山の伝説をいくつか紹介していただいたが、聞いたものも数ある伝説のうちのわずかでしかないようで、立山が人々にいろんな見方をされていたことを知った。

室堂駅では、今年から走り出した電気バスについての説明を受けた。トロリーバスが国内唯一となりメンテナンスに困難を生じるという問題を電気バスは解決してくれるそうだ。バスの中には立山についての様々な情報が流れるモニターが設置しており、乗客を楽しませてくれるものになっていた。帰り道では雛を連れたライチョウを見つけることができ、ライチョウを見つけた人限定のステッカーをいただけた。

今回の実習では数多くの貴重な体験ができた。それは多くの方のサポートによるものだ。私たち生徒はそれに感謝し、深い学びを得られるように探究活動、そして普段の学習に取り組んでいきたいと思う。

